



2025年3月号(No.23)

多気町立図書館だより

TEL0598-38-1133 (多気図書館)

TEL0598-49-4500 (勢和図書館)

<https://www.town.takikawa.jp/library/index.html>

『雑誌 NAGI vol.97,98,99』月見書

雑誌『NAGI』刊行100号!!

「地域に個性と活力を」をテーマに刊行されてきた三重のローカル季刊誌『NAGI』が100号で終刊。

数多くの各地域の魅力を取材してきた『NAGI』を大特集!

雑誌『母の友』『Simple』休刊。

バックナンバーを展示します。合わせてご覧ください!

多気図書館

3月のカレンダー

□: 休館日

日	月	火	水	木	金	土
おはなし会 10:30~						1
2	3	4	5	6	7	8
特開	開	理	理	理	おはなし会 おもちゃ	おはなし会 ぽけっと
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
					赤ちゃん おはなし会	おはなし会 ぽけっと
23	24	25	26	27	28	29
30	31				要日	

ブックスタート (のびのび) 3/21 (金) 10:00~

旅立ちの手紙。
いろいろなありがとうを
伝えたい一冊です。



『からっぽ たいくつようびは まだ
子どもが家族に贈る「ありがとう」短編集』
「いつもありがとう」作文コンクール書籍制作
委員会:編 幻冬舎 (F913.64)

~コーナー紹介~

・ここにも!そこにも!春がきた♪
いろいろな春をご紹介します

勢和図書館

3月のカレンダー

□: 休館日

日	月	火	水	木	金	土
おはなし会 10:30~						1
2	3	4	5	6	7	8
ぼん と カフェ		おはなし会 (0歳)				おはなし会
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
		おはなし会 (1~3歳)				おはなし会
23	24	25	26	27	28	29
30	31	要日				

~イベント・展示 紹介~

- ・和のほんとかフェ
と き: 3月2日(日)13:00~16:00
コラボ: oyatsuya・109さん、金川珈琲さん
お抹茶: 服部芳子(いろは)さん
- ・春。春のひかり ひらひら ひなまつり in 勢和
と き: 3月1日(土)~3月30日(日)
ところ: 企画展示室
可愛いつるし飾りに、雛なおひなさま。
ぜひ、ご覧ください!

FB・Insta→「多気町立勢和図書館」
か「salwa」で検索



3月のおすすめ本



『君はなぜ北極を歩かないのか?』

萩田泰永:著 産業編集センター (297.8円)

北極冒険家の萩田さんが、素人の若者を連れて約30日の北極圏600km踏破の旅へ! 氷点下40度、50度の世界。一歩間違えば命にも関わるその旅に、12名の若者が名乗り出た。そんな過酷な旅を経験した先には何かが変わるのだろうか?

萩田さんは言います。「冒険には、その行為自体には意味はない。しかし価値はある。」若者たちは何を感じたのか・・・

『涙にも国籍はあるのでしょうか?』 三浦英之:著 新潮社 (369.3円)

東日本大震災。多くの尊い命が失われました。震災から14年経った今でも、亡くなった外国の方の正式な人数が把握されていないことをご存じでしょうか。なぜなのか…。彼らが生きた人生にルポライターの三浦さんが出会います。



『料理家村上祥子 食べて生きるのびる食べカ』 村上祥子:著 集英社 (596円)

キャリア50年以上の料理研究家である、村上祥子さんの簡単なレシピ付きのお話。82歳の現在でも全国各地を飛び回って、料理教室や講演会をしておられます。何はともあれ食べること。簡単でも良いから1日3食、食事を準備し食べ続けること。子どもの食育は注目されているが、年を重ねたシニアにも食育は大切! 村上さんの元気をもらいながら、今日も食べて生きるのびましょう。

『バックステージの走者』 白川典人:著 幻冬舎 (685.6円)

競馬の馬を運搬する「馬匹輸送」という仕事があるのをご存知でしょうか? 北海道から茨城県や滋賀県の馬のトレーニングセンターまでの長距離輸送が行われています。トラックも特注、ドライバーもプロフェッショナル。知らなかった世界にページをめくる手がとまりません!



『さよなら校長先生』 瀧野麻子:著 PHP研究所 (P913.6円)

40年近く小学校の教職を勤め上げ、一教師として、校長として何よりも子どもたちのことを考え、定年後も地域の教育活動に尽力した高村先生。別れの知らせに、かつての教え子や同僚たちは、先生がかけてくれた真摯な言葉を思い出し…。大切な人の思い出とともに、それぞれが過去の自分に出会い直す。優しい読後感の一冊です。



『ポップ・フィクション』 堂嶋順一:著 文藝春秋 (F913.6円)

時は大正。夏目漱石や谷崎潤一郎など多くの文豪が活躍した時代。出版社に勤め編集者として日々走り回る松川。面白い雑誌を世の中に出すため、時には上司とぶつかりながらも作家と向き合う。そんなさながら起こった関東大震災。機軸もの壁にぶつかりながらも、時代の流れとともに変わってきた雑誌。ラジオがそこまで普及していなかった時代に人々が求める雑誌を作家とともに作り上げていく。

